

令和4年度 いのちの授業 事例集（小学校）【国語】

掲載数

28

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	小5	国語	物語 「たずねびと」	戦争時代の物語を読むことで、命についての大切さを考えた。原子爆弾を扱った話の内容からは、「死者〇〇名」という数字ではなく、一人一人に名前や生き方があったことに気付いた。亡くなった一人ひとりに気持ちを向けること、生きている自分たちもお互い大切にしていきたいという気持ちをもつことができた。	
2 川崎市	小5	国語	やなせたかしー アンパンマンの 勇気	自身の戦争の経験から、東日本大震災の復興に努めたやなせたかしさんの話を知り、諦めないで生き抜いていくことの大切さや人々と協力し合うことの尊さを感じ、自分自身に置き換えて考える態度を養う。	光村図書国語5年
3 川崎市	小5	国語	「やなせたかしー アンパンマン の勇気」	アンパンマンの作者の伝記である教材文を読み、生き立ちや戦争などの体験が作者の生き方や考え方に影響を与え、アンパンマンを生み出す原動力になったことを学んだ。夢と信念をもって人のために尽くす姿から、自らの生き方について考え、今までの自分を振り返り今後をどう生きていくかを考えるきっかけとなった。	教材名 「やなせたかしーアン パンマンの勇気」 梯久美子
4 相模原市	小5	国語	「たずねびと」～ 命のつながりにつ いて考える～	物語教材「たずねびと」の学習を通して、主人公の心情に迫ると共に、命のつながりをテーマに話し合う授業を行った。本文に出てくる平和記念資料館をはじめとした広島を、インターネットを利用して児童に紹介したことで、戦争の悲惨さについても考えるきっかけとなった。自分の命が受け継がれてきたことやその先へつながっていくことを児童は考えていた。	
5 横須賀市	小3	国語	ちいちゃんのか げおくり	「かげおくり」という遊びを題材に書かれた戦争作品であり、現代の子ども達には自分事として考えるのが難しい。しかし、登場人物や当時の生活などについて、書籍やPCを使用しながら、時間をかけて学習を進めた結果、戦争の悲惨さと失われた命の尊さなどについて、一人ひとりが、文章で書くことができ、最後の発表会では命の大切さについて皆語ることができた。	クロムブック 「戦火の中の子どもた ち」岩崎書店 「おはじきの木」 あかね書房 「ひろしまのピカ」 小峰書店

6	横須賀市	小5	国語	戦争を通して	主人公が駅のポスターを見て、同じ名前の子を探す。そのポスターは広島原爆供養塔納骨名簿だった。主人公は、同じ名前を探す中で、戦争の恐ろしさや残された遺族の悲しみなどを知っていく。子どもたちは、物語を読んでいく中で、同い年の主人公に感情移入し、昔に起きた戦争について考えていた。今と昔の生活の違いに驚き、自分たちが今できることを考えていた。「自分たちにできることは少ないが、この出来事をまた起こさないように受け継いでいく」と感想に書いていた。戦争について知っていたこともある児童が多かったが、この教材を通して、改めて戦争について考えることができた。	
7	湘南三浦	小5	国語	生命尊重 戦争と平和	主人公の心情の変化を読み取る中で、戦争の恐ろしさや命の大切さについて考えることができた。児童にとって戦争は身近なものではなかったが、登場人物の思いを自分と重ねながら物語を読み進めることで、多くの人が亡くなったことや、原爆による被害の大きさや怖さを実感した。また、命の重さを感じ、現在を生きるわたしたちが、どう生きていけばよいかを考えるきっかけとなった。	国語 五年「銀河」 光村図書 「たずねびと」
8	湘南三浦	小4	国語	戦争から考える	国語「一つの花」を読み、戦争について学んだ。戦争時の家族のありかたや生活の様子から、平和や命の大切さを学ぶことができた。	教科書等
9	湘南三浦	小4	国語	一つの花	国語「一つの花」の物語の学習を通して、戦争当時に生きる人々の生活と今の自分たちの生活とを比べたり、登場人物の思いに自分の思いを寄り添わせたりしながら題材についての理解を深めていくことで、改めて戦争の悲惨さや命の大切さを学級全体で学んだ。	国語教科書
10	湘南三浦	小3	国語	戦争と平和	国語題材「ちいちゃんのかげおくり」を読み、物語の背景や主人公の気持ちを捉えながら、子どもたちが主人公の立場にたち、戦争をとおして命の大切さを学んだ。	
11	湘南三浦	小5	国語	戦争から命の大切さを知る	戦争体験が物語の中に書かれている。実際に日本であった戦争で多くの人が亡くなったのは事実である。一発の爆弾で14万人が亡くなったことについて初めて知った子どもたちは驚きを隠せない様子だった。学習していく中で被爆者の願いなども聞き、二度と同じことは起こしてはならないという気持ちをもったようだった。「自分の思い」を重ねて登場人物の思いを考えた。命の大切さについて改めて考える機会となった。	「デジタル3Dコンテンツin平和記念公園」を利用。（広島テレビ放送株式会社、株式会社たびまちゲート広島）

12	湘南三浦	小6	国語	物語文 「やまなし」	宮沢賢治の生い立ちから、賢治の生き方や考え方を知り、賢治が「やまなし」の中で読者に何を伝えたいのかについて考える授業を行った。「イーハトーヴの夢」から、自然との付き合い方や生と死について、人間が人間らしい生き方が出来る社会について等、賢治の考え方について知ることができた。子どもたちは、賢治の生き方考え方を知った上で「やまなし」を読んでいくと、5月と12月が「生と死」であったり「明と暗」「温と冷」のような対比になっていること、かわせみとやまなしの奪う物と与える物の対比などについて気づくことが出来た。学習の最後には、この話の主題が「人の生き方として大切なこと」、「命の大切さ」であることに気づくことが出来た。	光村図書第6学年 国語教科書より 「やまなし」 宮沢賢治
13	湘南三浦	小6	国語	「平和のとりでを築く」	5年での「たずねびと」、4年での「一つの花」など各学年で戦争について学習してきた。また、社会でも戦争についてより具体的に学習してきた上で、この「平和のとりでを築く」について読んでいった。「平和のとりでを築く」では、戦争の中でも原爆、そして広島について更に詳しく、原爆ドームには色々な思いがあることについて学習した。子どもたちは、内容を読み解く中で、広島の人々の願いや思い、そして原爆ドームを残す意味について考えを深めることが出来た。	光村図書第6学年 国語教科書より 「平和のとりでを築く」 大牟田稔
14	湘南三浦	小4	国語	戦争・平和教育 物語「一つの花」	戦争時の生活や様子を資料から知り、明日が保障されない日々について考えた。また戦争に行く人や送り出す人の思いについて話し合った。主人公が成長し、大人になることで、お父さんの生きた証を大切にできていることに気づけた。	国語の教科書 戦争時の暮らしが写真で載ってる本
15	湘南三浦	小5	国語	「たずねびと」	国語科の「たずねびと」の教材を通して、たくさんの人々の命が失われた戦争や原爆の恐ろしさを知り、自分の命の尊さを改めて考えるきっかけとなった。また子どもたちは、戦争は過去のものとして捉えていたが、原爆ドームや広島平和記念資料館の存在、平和記念式典が毎年行われていることを知り、今も戦争の悲劇を忘れない取り組みがされていることを知ることで、受け継がれた平和をこれからも未来につなげていこうという気持ちを高めることができた。	光村図書5年「銀河」
16	湘南三浦	小5	国語	伝記を読み、自分の生き方について考えよう	学習単元「やなせたかしーアンパンマンの勇気」の学習の中で、やなせたかしが戦争を経験する中で感じた、その悲惨さや苦しみ、正義の本当の意味などを児童は考え、その経験が生み出したものについて学んだ。また、東日本大震災の人々の心を支えたものが、やなせたかしの描いた勇気であったことを知り、自分の感想や意見を持ちながら、それを表現する活動を行った。	教科書等

17	湘南三浦	小5	国語	戦争 「たずねびと」	「たずねびと」は、日本の広島への原爆投下の内容を扱った文章である。毎年、8月6日には、テレビや新聞などで、この痛ましい出来事が扱われる。子どもたちは、「日本は原爆が投下された」「8月6日の出来事だ」「広島には原爆ドーム」があるという知識は持っているものの、具体的にどのような悲惨な状況下にあったのかを知らなかったため、適宜、解説を入れたり、iPadで調べたりした。「はだしのゲン」や読売KODOMO新聞で扱われた「77回目の原爆忌」や「ロシアとウクライナの戦争」の記事も授業で紹介し、戦争に対する理解を深めた。最後には、単元での学びを踏まえた上で、日本や世界はどうあるべきか、そのためにはどうしていかなければいけないのかをロイロノート（クラウド型学習支援アプリ）にまとめた。	「はだしのゲン」 読売KODOMO新聞の戦争 関連記事
18	湘南三浦	小2	国語	物語を通して動物の生命の尊重に気づかせる	国語の物語教材から、主人公（少年）と飼い馬との交流の様子を読み取り、動物に対する愛情を深めるとともに、自分が飼っている動物などに対しても誠意を持って飼育できるように、いのちの大切さを学んだ。	スーホの白い馬 (光村図書出版)
19	湘南三浦	小3	国語	「ちいちゃんのかげおくり」	単元の導入で戦争当時の写真を見せた。子どもは、様々な意味で今とは違う当時の様子に驚いていた。はじめはわからなかったことも、読み深めるうちにだんだんとわかるようになっていった。特に、主人公の置かれている状況や気持ちについては、最後の場面で天国で家族と出会えたことを幸せと感じる子、それから何十年後に公園できらきら笑い声を上げているのを幸せと感じる子がいた。家族と一緒にだからこそその幸せ、命があってこそその幸せを感じ取っていた。	国語3年教科書
20	湘南三浦	小3	国語	戦争と家族	遠い過去の出来事である「戦争」と当たり前のようにある「家族と平和」について、戦争文学「ちいちゃんのかげおくり」を通して考えた。主人公であるちいちゃんのみ、家族を通して、二つの場面での「かげおくり」を比べながら読み、戦争によって失われていく生活や命について考えることができた。最後の感想では、ウクライナとロシアの戦争のニュースをとりあげ、「なぜ、戦争をおこしているのか」「これから先もずっと世界が平和であってほしいです」「わたしももっと生きてみたいです」など、平和や命についての感想を持つことができた。	「ちいちゃんのかげおくり」
21	湘南三浦	小4	国語	うなぎの謎を追って	光村の国語の教科書に載っている「うなぎの謎を追って」の作者の塚本先生が個人でおこなっていた講演を引き継いだ、財団法人に所属する講師にお招きし、うなぎの生態や、資源を守ることを学び、生命の神秘や持続可能な共生社会に向けて考えた。	一般財団法人 鰻の食文化と鰻資源を守る会
22	県央	小4	国語	もしものときにそなえよう	災害対策を題材に、意見文を書く活動をした。実際の被害について文献やインターネットで調べたり、避難所生活を体験した人の話を聞いたりした。実際の被害の大きさや、被害にあった人の多さに驚く様子が見られた。また、自分の身近な人の避難所生活で困ったことなどの話を聞き、自分ができる備えについて考えた。調べ学習後、自分や家族の命を救いたいと、備えの準備をしたことを報告するなど情報共有を図ったり話し合ったりする様子も見られた。	国語 光村図書

23	中	小2	国語	うれしいことば	<p>どんなときに、どんな言葉を言ってもらおうと、うれいにかについて考え、友だちと紹介あった。自分の経験をもとに話し合ったことで、自分事として具体的に相手の気持ちについて考えることができた。うれしい言葉をかけあうことが、命を大切にしようことにつながるのだと自覚することができた。</p>	教科書
24	中	小4	国語	コミュニケーション	<p>人間関係を良好にするにあたり、円滑なコミュニケーションをとれるような学習活動を行った。ロールプレイを取り入れながケースごとにどんな会話をすればよいかを考えた。</p>	教科書
25	県西	小1	国語	死について考える	<p>自分とともに育ったエルフを心から愛し、死をもって別れてからも変わらず続く深い愛情を描いた作品であることを理解した。そのため、身近な生き物と関わった経験を振り返りながら学習を進めることで心のつながりをもって動物と関わることのすばらしさについて考え、話し合った。</p>	国語 教科書 光村図書 1年（下）
26	県西	小5	国語	たずねびと	<p>ある日、駅の構内で一人の少女（小学五年生）が原爆供養塔納骨名簿のポスターに目を奪われることから始まる物語文である。同姓同名同年齢の人物の名前をポスターに見つけ、そこから実際に広島へ赴き、過去に起こった事実を知ることで、戦争への思いを深めていく。子どもたちは、主人公に自分を重ね、原爆や戦争について思いを深めたことで、亡くなった方たちのことや、過去に起こったことを忘れないことが大切だと気付いていた。また、一人ひとりが「大切な人」であり、一人ひとりにその人の人生があったのだということも感じていた。</p>	光村図書「たずねびと」（5年生）
27	県西	小4	国語	大切な命	<p>お父さんが戦争に行く日に、お父さんはどんな気持ちで一輪のコスモスの花を渡したのかについて考えた。児童は、コスモスの花が戦争の中でも強く生き生きと咲いていた状況をもとにして、その花に込められたお父さんの気持ちを想像した。「花をお父さんだと思ってほしい。」「平和な時代になって幸せになってほしい。」など、ゆみこや家族のことを思いながら出征したお父さんの様子などから、かけがえのない命を大切にすることについて考えた。</p>	光村図書4年 国語「一つの花」
28	県西	小4	国語	生きていることの尊さ	<p>ランドセルがアフガニスタンの子ども達にどれほど歓迎されているかを、写真と分かりやすい文章とで説明しているルポルタージュである。ランドセルを抱えて笑顔になる子ども達の姿、地面に座って勉強する学校の様子など、新鮮な驚きとともに事実を知ることができる。アフガニスタンでは、「当たり前前に成長することがむずかしい」と書かれている。「命があるから苦しいことも楽しいことも実感できる。だからこそ、人々は生き生きとしている。」教科書の言葉から深く考えさせられた。</p>	光村図書：国語4上 「ランドセルは海をこえて」